

私が感動した建築は Optical glass house である。この Optical glass house は広島市の中心部に建つ個人住宅である。周囲には高層ビルが建ち並び、8車線の前面道路には車や路面電車が行き交っている。設計者は中村拓志で竣工年は2012年10月、構造は鉄筋コンクリート造である。私はこの Optical glass house を初めて見た時に衝撃を受けた。一見すると真っ黒な立方体しか見えないが、巨大なファサードを忘れたことはない。さらに、通常名作と呼ばれるような建築物は十分な敷地を確保して郊外に作られるような形が多いが、この Optical glass house は広島市内の限られた土地の中に作られている。限られている敷地だからこそ魅力が詰まっている Optical glass house について私の感動した点と特徴を交えて紹介する。

私が感動した点の一つ目はファサードへのこだわりである。市内に設計された Optical glass house は周囲に車や電車が走りとても静寂な環境とは言えない。そこでプライバシーを守り静寂な空間とするために、道路側に光学ガラスのファサードを設けている。約6000個のガラスの塊(50mm×235mm×50mm)をファサードに用いたのは、単位面積あたりの質量が大きく遮音効果がありながら、都市の風景を遮断せずにクリアで開放的な庭を作るためである。そのため、光学ガラスの原料であるホウケイ酸ガラスを主体とした透明度の高いガラスを、キャスト法で製作している。この工法はガラス内の残留応力の除去のための緩やかな除冷と、厳しい寸法精度を要するため、制作は困難を極めたがその結果としてどの部屋にいても庭を眺めることができ、重量のある光学ガラスの壁が音を遮ることが可能となった。また、このファサードは内観だけでなく外観にも大きく作用している。光学ガラスの効果によって角度によってファサードに映る景色が変化するのだ。実際に見学に行き、右から左へ左から右へ移動してみるとファサードが全く異なる。例えるとすれば3D加工がされているカードを見ているような不思議な気分になった。

私が感動した2つ目の点は前庭である。Optical glass house では前面に敷地の約3分の1の前庭が設けられている。光学ガラスは音を遮るがその代償として中が透けて見えてしまうという欠点がある。そこで前面に大きな前庭を持たせることでプライバシーを保つと同時にファサードを変化させることと敷地内に自然を入れることを可能にした。中から前庭方向を見てみると葉っぱの揺れや木漏れ日を間近で感じることができる。写真を見てみると木陰ができていて見るものにそこに座りたいという気持ちを与える。前庭には植物だけでなく人工的な池が作られている。植物と池があることであたかも自然の一部を切り取ってきたかのような印象を抱く。

私が感動した3つ目の点はカーテンへのこだわりである。前庭の後ろ方向に設置されている金属をスパッタリングしたカーテンは、光をまとめてゆらめくことで建物前後の2つの内庭の温度差によって風が起こっていることを教えてくれる。またこのカーテンは超軽量のカーテンであり風に敏感に反応する。屋内にいながら風を身近に感じられるのもこのカーテンの魅力の一つである。そしてこのカーテンの最大の特徴は生地自体が透明なことである。通常のカーテンはプライバシーの保護の観点から色がついている。だがこのカーテ

ンは光学ガラス、植物を前面に挟むことでプライバシーの心配がない。よって透明なカーテンを実現している。超軽量で透明なことで都心であっても一日の光や街の変化、季節の移り変わりを感じながら暮らすことが可能になった。光学ガラスを通った東からの陽光は植物を通り、金属をスパッタリングしたカーテンを通る。中から見える景色や感じることでできる陽光の暖かみ、自然の爽快感は Optical glass house でしか味わえない体験である。

私が感動した 4 つ目の点は内装へのこだわりである。内壁は基本的には黒一色でまとめられており、なにか冷たさを感じる。だがインテリアには木が用いられている。インテリアに木を用いることで黒一色の冷たいイメージを抱かせていた内装に温かさをもたらすことができ、建築的に中和が生まれている。また、室内にファサードで用いられている光学ガラスが使用されている。光学ガラスによって室内でもパブリックなスペースと個人のスペースを分けることが可能になっている。

この Optical glass house の最大の見どころは夜にある。夜になると前面のファサードがライトアップする。ライトアップによって黒い立方体から浮き出たファサードはまるでスクリーンに映る映画のような印象を抱かせる。昼でも夜でも魅力を発揮する Optical glass house にはまだまだ見つけていない魅力があると考えている。

以上が私が感動した Optical glass house の特徴である。これからも忘れることはない Optical glass house について探求していきたいと考えている。